スルガ銀行

２０２５年度　中間期決算ハイライト

2025年11月13日

スルガ銀行

■目次

あってよかった 出会えてよかった

Ⅰ 決算概況	page
・2026年3月期 中間期決算実績 – 前年同期比 –	1
・2026年3月期 業績見通しの上方修正 – 単体・連結 –	2
・KPIの推移	3
・資本政策 - 配当予想修正 -	4

Ⅱ 配当予想修正の背景	page
・ローン等の新規実行額推移	5
・本業の収益力向上	6
・レジリエンスの確保	7

Ⅲ PBR1倍超に向けた取組み	page
・課題認識とROE目標	8
・PBR1倍超に向けたフレームワークと主な取組み	9
・クレディセゾンとの業務提携の状況	１０
・ESG／SDGsの取組み状況	１１

Ⅳ 参考資料	page
・2026年3月期 中間期決算実績 （詳細） – 前年同期比 –	１３
・預金量推移および粘着性向上に向けた取組み状況	１４
・バランスシートの概況	１５
・住宅ローン・投資用不動産ローンの取組み状況（実行額推移）	１６
・ストラクチャードファイナンスの取組み状況	１７
・有価証券の取組み状況	１８
・ローン等の残高、利回り、延滞率 ＜単体＞	１９
・金融再生法開示債権 ＜単体＞	２０
・投資用不動産ローン – 組織的交渉先の状況 –	２１

本資料における表記の定義

株式会社クレディセゾン	クレディセゾン

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

Ⅰ　決算概況

Ⅱ　配当予想修正の背景

Ⅲ　PBR1倍超に向けた取組み

Ⅳ　参考資料

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■2026年3月期 中間期決算実績 – 前年同期比 –

あってよかった 出会えてよかった

＜単体＞

（億円）

	2024年9月期 実績(A)	2025年9月期 実績(B)	前年同期比 (B)−(A)
コア業務粗利益（除く投信解約損益）	２９９	３２９	＋３０
うち新事業粗利益	８８	１３４	＋４５
経費（▲）	１７３	１６９	▲４
実質与信費用（▲）	▲０	▲２０	▲２０
有価証券関係損益	０	▲２４	▲２５
経常利益	１２８	１６３	＋３４
中間純利益	１１０	１５６	＋４６

＜連結＞

（億円）

	2024年9月期 実績(A)	2025年9月期 実績(B)	前年同期比 (B)−(A)
連結経常収益	４２５	５２３	＋９７
連結経常利益	１２９	１６７	＋３７
親会社株主に帰属する中間純利益	１１０	１５８	＋４７

※実質与信費用の内訳について、当中間期（2025年9月期）より、「通常発生」の内訳を精緻化し、その発生原因にまで遡って集計する方法に変更しております。
この変更に伴い、前年同期（2024年９月期）の実績も新基準に基づき表示しております。

単体・連結とも、経常利益・中間純利益が2期連続の増益

- **本業であるローンビジネスが順調に推移し、コア業務粗利益は+10%**
- **2025年9月期の実績（単体・前年同期比）**
  経常利益　+27%
  中間純利益　+42%

※内訳詳細は13ページ参照

（実質与信費用の実績※）

（億円）

		2024年9月期 実績	2025年9月期 実績
実質与信費用 計		▲０	▲２０
通常発生	特殊要因のない債権から発生する実質与信費用（シェアハウス関連融資先も含む）	▲２０	▲１７
予防的引当	以下、対象債権に対する引当	１７	▲５
	投資用不動産ローンのお客さまの一部において、組織的な交渉を契機とし、新たに返済停止を行った方々に対する引当	▲１０	▲１３
	貸出条件緩和債権のうち将来の回収の正常化が見込み難い債権に対する引当	２７	７
法人	法人向け債権から発生する実質与信費用	３	２

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■2026年3月期 業績見通しの上方修正 – 単体・連結 –

あってよかった 出会えてよかった

好調な上期業績を踏まえ、通期業績予想を上方修正（経常利益・単体 +３０億円、当期純利益・単体 +３０億円）

＜単体＞

（億円）

	2026年3月期業績見通し		増減 ②－①
	期初予想①	今回予想②	
コア業務粗利益（除く投信解約損益）	６１５	６３０	＋１５
うち新事業粗利益	２４０	２６５	＋２５
経費(▲)	３５０	３４０	▲１０
実質与信費用(▲)	▲３５	▲４５	▲１０
有価証券関係損益	▲３０	▲４０	▲１０
経常利益	２７５	３０５	＋３０
当期純利益	２２０	２５０	＋３０
1株当たり年間配当金	３７.０円	４４.０円	＋７.０円

＜連結＞

（億円）

	2026年3月期業績見通し		増減 ②－①
	期初予想①	今回予想②	
経常利益	２７５	３１０	＋３５
親会社株主に帰属する当期純利益	２２０	２５０	＋３０

＜主な要因、単体＞

コア業務粗利益

✓ ローン等の新規実行額が、期初計画を上回るペースで推移
（期初通期計画対比69%の進捗）

経　費

✓ 人的資本投資は拡充させつつ、コスト構造改革による物件費削減が寄与

有価証券関係損益

✓ 金融市場の動向を踏まえ、国内債券の売却損を2025年度後半に追加で見込む

当期純利益

✓ 順調な業績を背景に繰越欠損金が当期中に解消され、当期後半以降の税負担率は法定実効税率程度へ上昇する見通しのため、当期の税負担率は17%程度を見込む

実質与信費用

（億円）

		2026年3月期	
		期初予想	今回予想
実質与信費用 計		▲３５	▲４５
通常発生	特殊要因のない債権から発生する実質与信費用（シェアハウス関連融資先も含む）	▲３５	▲４０
予防的引当	以下、対象債権に対する引当	▲５	▲１０
	投資用不動産ローンのお客さまの一部において、組織的な交渉を契機とし、新たに返済停止を行った方々に対する引当	▲３０	▲３０
	貸出条件緩和債権のうち将来の回収の正常化が見込み難い債権に対する引当	２５	２０
法人	法人向け債権から発生する実質与信費用	5	5

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■KPIの推移

あってよかった 出会えてよかった

2025年度計画を上方修正
中期経営計画の最終年度を迎え、中計KPIは超過達成の見込み

		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 期初計画	2025年度 修正計画	2025年度 中計修正計画 -2024年4月4日 公表-
メインKPI	経常利益	112億円	201億円	256億円	275億円	305億円	170億円
	当期純利益 （連結）	105億円	153億円	201億円	220億円	250億円	135億円
	自己資本比率 (バーゼルⅢ最終化ベース)	11.39%	11.87%	11.27%	10.8%	10.3%	実質10% 以上
サブKPI メインKPI実現に向けた重点取組指標	新事業粗利益	77億円	113億円	188億円	240億円	265億円	190億円 以上
	経費	362億円	351億円	352億円	350億円	340億円	340億円 以内
	実質与信費用 比率	▲5bps	▲9bps	▲9bps	▲15bps	▲20bps	10bps 程度

注：「連結」の記載のない項目は、スルガ銀行（単体）の計数・指標

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ 資本政策 - 配当予想修正 -

あってよかった 出会えてよかった

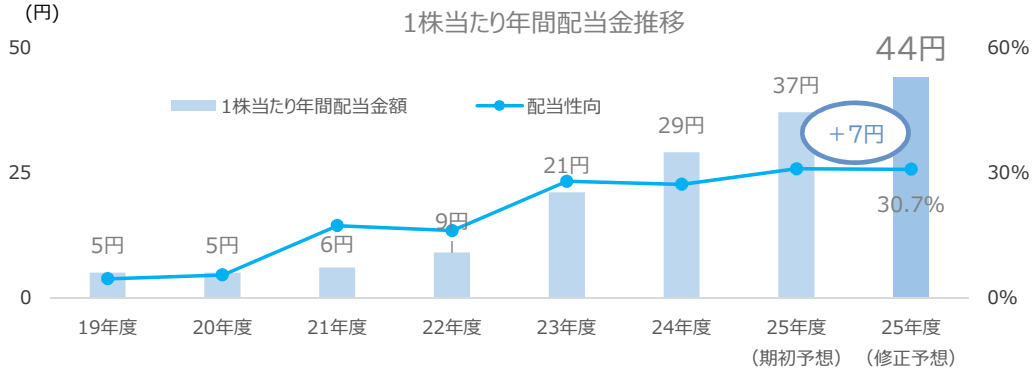
株主還元の基本方針及び配当方針に則り、1株当たり年間配当金は期初予想から7円増配の44円を予想

株主還元の基本方針	資本の健全性や成長のための投資との最適バランスを検討した上で、株主還元の充実に努める方針

＜配当方針＞

配当性向30%程度を目安とした安定配当を基本方針とする

2026年3月期	期初予想	今回予想
1株当たり年間配当金（累計）	37.0円	44.0円
うち 中間配当金	18.5円	22.0円
うち 期末配当金	18.5円	22.0円



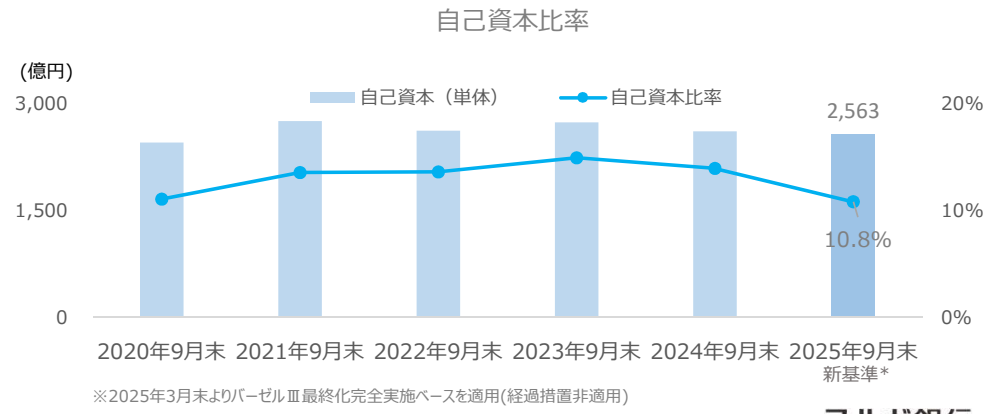
＜自己株式取得方針＞

・資本効率の向上に資する株主還元策として、業績・資本の状況、成長投資の機会及び株価を含めた市場環境を考慮し、機動的に実施

【2025年5月公表の自己株式取得の状況】

	計画	2025年10月末日時点の取得累計
取得株数	1,250万株（上限）	1,002万株
取得価額	150億円（上限）	129億円
取得期間	2025年5月13日～2026年1月31日	

※詳細は、2025年5月12日公表の「自己株式の取得並びに自己株式の公開買付け及び市場買付けに関するお知らせ」及び2025年11月5日公表の「自己株式の取得状況に関するお知らせ」をご参照ください。



※2025年3月末よりバーゼルⅢ最終化完全実施ベースを適用(経過措置非適用)

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

Ⅰ　決算概況

Ⅱ　配当予想修正の背景

Ⅲ　PBR1倍超に向けた取組み

Ⅳ　参考資料

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ローン等の新規実行額推移

あってよかった 出会えてよかった

ローン等の新規実行額は通期計画比69%の進捗

- **通期見込みは、期初計画対比＋640億円増加の3,520億円に上方修正**

（億円）

	2024年9月期 実績 (A)	2025年9月期 実績 (B)	伸率 (B-A) /(A)	期初 通期計画	通期 見込み
ソリューション事業	３４８	４２７	２２%	６２０	７２０
投資用不動産ローン	４７６	５４２	１３%	７５０	９２０
ストラクチャードファイナンス	３７６	７０１	８６%	７５０	１,１２０
コラボレーション・ローン等	３５６	３２５	▲８%	７６０	７６０
合計	１,５５７	１,９９７	２８%	２,８８０	３,５２０

+640億円の上方修正

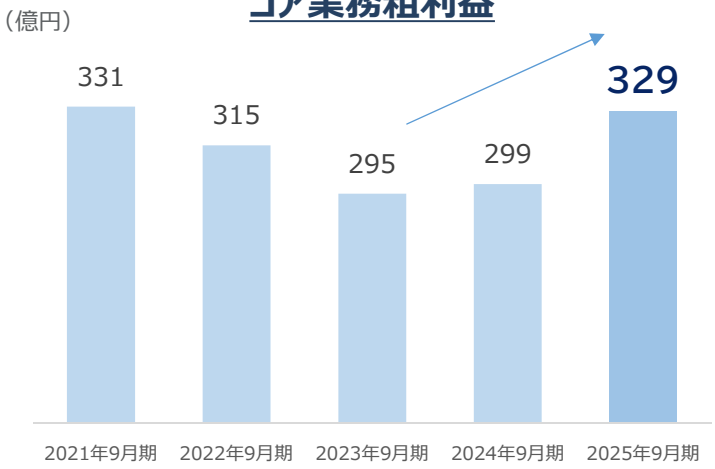
※中期経営計画“Re:Start 2025”以降の推進領域の新規実行(取得)額
※ソリューション事業：住宅ローン、無担保ローン等
　2025年6月期より、法人向け住宅ローンを集計対象に加えております。これに伴い、比較可能性を確保する観点から前期の数値も遡及して集計しており、
　2024年9月期における当該ローンの実行実績は18億円です。
※投資用不動産ローンには、法人向け投資用不動産ローンを含む
※ストラクチャードファイナンスには特定社債等を、コラボレーション・ローン等には買入金銭債権等を含む

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

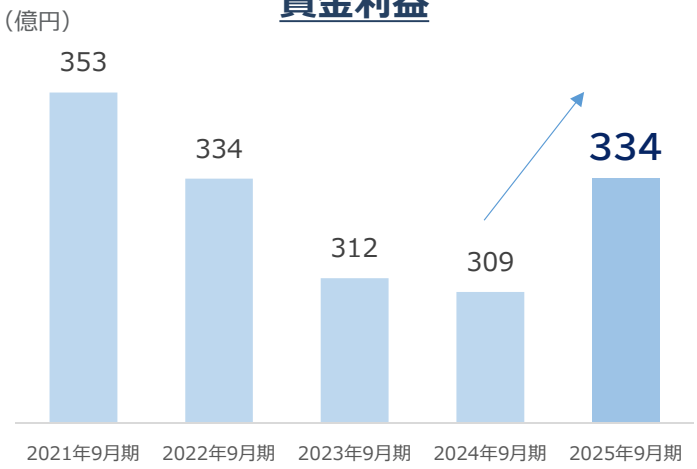
■本業の収益力向上

あってよかった 出会えてよかった

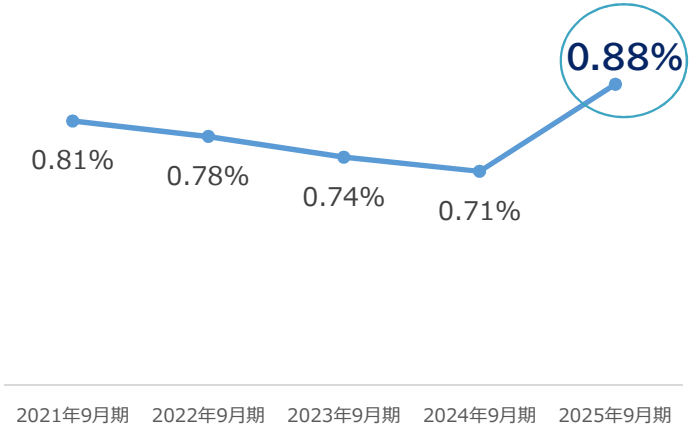
コア業務粗利益



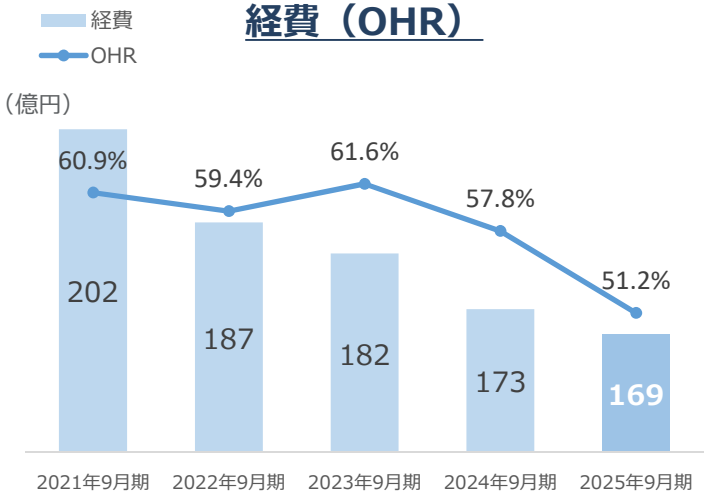
資金利益



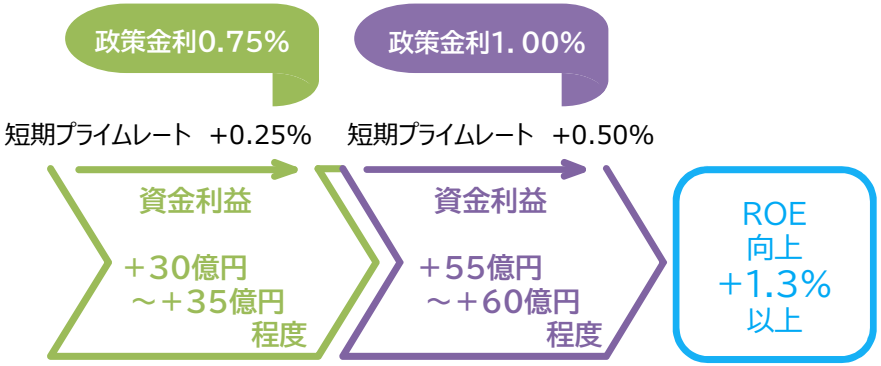
総資金利ざや



経費（OHR）



政策金利上昇による資金利益のインパクト



【試算前提】
・基準ポートフォリオ 2025年９月末
・試算は、2025年5月29日公表の決算説明会資料に準じて実施

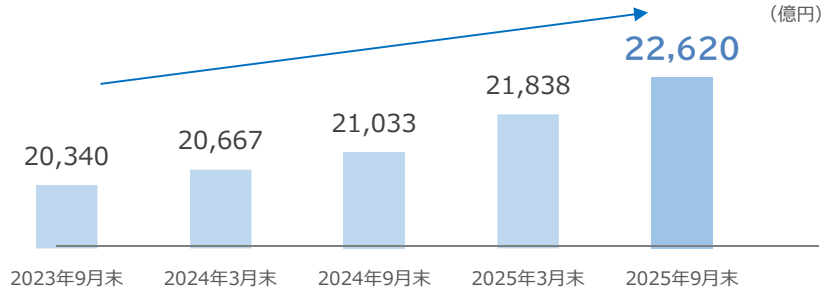
© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■レジリエンスの確保

あってよかった 出会えてよかった

＜貸出金残高＞

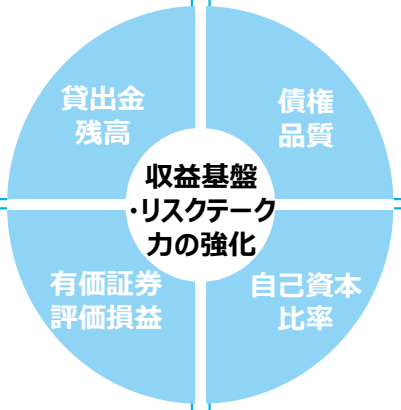
2023年9月末以降、残高は増加トレンド



＜債権品質＞

品質向上に向けた地道な取組みを通じ、
徐々に金融再生法開示債権比率が低下

	25年3月末	25年9月末	増減
総与信に対する開示債権比率	8.56%	7.83%	▲0.73pt
うち組織的交渉先除く	5.02%	4.55%	▲0.46pt



＜時価のある有価証券＞

（億円）

	2025年3月末		2025年9月末	
	時価	評価損益	時価	評価損益
その他有価証券	3,246	204	3,786	301
株式	509	292	565	363
債券	2,205	▲65	3,051	▲63
ﾏﾙﾁｱｾｯﾄﾌｧﾝﾄﾞ	376	▲23		
その他	154	0	169	1

2025年9月末　預証率：12.4%　国内債券ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ：3.4年　国内債券100BPV：▲105億円

デュレーション短期化により、金利リスクへのレジリエンスが向上

＜自己資本比率＞

（億円）

	25年3月末	25年9月末
自己資本比率	11.27%	10.81%
自己資本(コア資本)	2,592	2,563
リスクアセット等	23,000	23,709

「金利ある世界」へ変わりつつある中、
必要なリスクテークを可能とする資本バッファーを確保

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

Ⅰ　決算概況

Ⅱ　配当予想修正の背景

Ⅲ　PBR1倍超に向けた取組み

Ⅳ　参考資料

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ 課題認識とROE目標

あってよかった 出会えてよかった

PBR１倍超に向け、成長基盤をより堅固なものとするとともに、自己資本マネジメントも着実に進め、ROEの向上を図る

現状分析

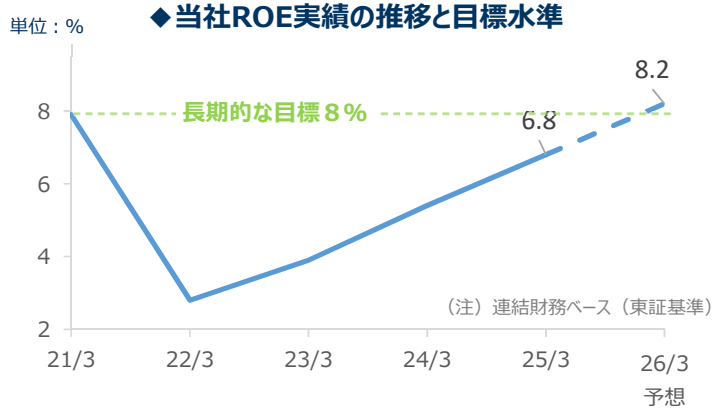
◆上場地銀との比較

単位：倍・%

	PBR	PER	ROE
当社	0.89	12.2	6.8
上場地銀平均	0.53	10.8	4.6

（出　　所）QUICK
・PBR・PERは、連結優先ベース(2025年9月末)
・ROEは、連結財務ベース（東証基準）、2025年3月期実績

◆当社ROE実績の推移と目標水準



◆資本コスト推計

CAPMに基づく推計	7%台
PBR・ROEに基づく推計	8～9%

- 現時点で当社の認識する資本コストは7%程度

課題認識

- PBR1倍超に向けて、当社の最重要課題はROE向上
- ROEは2021年度末に底打ちし、今期予想は8.2%
  （但し、税負担率の影響を考慮すると実質7.0%であり、引き続きの改善が必要との課題認識）

PBR1倍超に向けたROE目標

現在のROE目標：平均的に６%以上、長期的には８%以上を目指す

➢ 次期中期経営計画において、上方修正を検討中

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ PBR1倍超に向けたフレームワークと主な取組み

あってよかった 出会えてよかった

株主価値向上 [PBR 1倍超へ]

PBR1倍超に向けたフレームワーク			主な取組み
ROE向上	持続可能な収益構造の構築	● 中計に沿って、持続可能な収益構造を構築 ➢ KPI：新事業粗利益190億円以上 経費340億円以内、 実質与信費用比率10bps程度	• ４つのプロフィットセンターによる新事業粗利益の成長牽引 • 預貸率の改善 • 債権品質向上による実質与信費用の低位安定化 • コスト構造改革の完遂
	自己資本マネジメント	● 株主還元方針に沿った資本政策の実施 ➢ KPI：自己資本比率 10%*以上	• 配当性向30%程度を目安とした安定配当 • 自己資本比率のターゲットレンジを意識した、機動的な自己株式取得 • 政策保有株式比率の抑制
期待成長率向上		● DNAである「違いの創造」に向けた取組みの加速化 ➢ オーガニックな成長とインオーガニックな成長加速の両面から	• 高い収益性と持続的成長に向けた、ブルーオーシャンの開拓 • クレディセゾンとの提携進化による「Neo Finance Solution Company」の創造
資本コスト低減		● 事業リスクに対するレジリエンスの確保 ➢ RAF**に則り、選択領域での積極的リスクテイクと検証を繰り返すと共に、リスク分散を図る	• 金利ストレステストによる事業影響と潜在的リスクの点検 • 「築古・地方所在」の投資用不動産ローン比率の低減 • ESG/SDGsの取組み推進

● 戦略的IR活動／ディスクロージャーの充実

* バーゼルⅢ最終化ベース。また、有価証券評価差額金が評価損である場合は、当該評価損をコア資本より控除
** リスクアペタイト・フレームワーク

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ クレディセゾンとの業務提携の状況

あってよかった 出会えてよかった

クレディセゾンとの資本業務提携は、当初計画した貸出関連領域で着実にシナジーを創出
今後は、調達関連領域での協業も加え、新たなシナジー創出ステージへ

両社のリテールノウハウを最大限活用し、シームレスに連携することにより、あらゆる「困りごと」や「不」を起点とした
“Neo Finance Solution Company” を創造する

CREDIT SAISON **Non-Bank** ✖ スルガ銀行 **Bank**

人財交流	住宅ローン事業	不動産ファイナンス	ペイメント領域
2023年8月～	2023年10月～	2023年11月～	2024年4月～
クレディセゾンから当社へ 延べ25名 2025年9月末17名 当社からクレディセゾンへ 延べ2名 2025年9月末 1名	2025年9月末 当社実行累計 298億円 うちクレディセゾン保証 296億円	2025年9月末 当社実行累計 788億円	セゾンプラチナビジネス AMEXカード等 クレジットカード発行枚数 2025年9月末累計 6,128枚

Next Step

SAISON ＋ スルガ銀行

セゾンカードの顧客基盤

デジタルバンキングサービス

両社のリテール基盤を活用

セゾンカード会員さま向けの
独自の金融ソリューションの提供

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ESG/SDGsの取組み状況（地域活性化に向けた取組み）

あってよかった 出会えてよかった

地域創生室を新設

ビジョン

自転車を軸に地域経済活性化を図るとともに、様々な地域社会への貢献活動を統轄、支援することで、持続可能な地域経済と豊かで暮らしやすい社会を創造する

ミッション

地域経済の活性化
地元資源を活用したイベント開催等で地域の消費活動を促進します

地域ブランドの向上
地域の認知度向上を目指します

健康とコミュニティの促進
自転車を活用した地域住民の健康づくりを推進します

地域社会への貢献活動の統括、支援
地元企業との連携により、健康経営やESG活動の一環としても
サイクリングを取り入れていただく機会を創出します

アクション

サイクルイベント
当社のサイクルステーション（御殿場、沼津、伊豆、湯河原）を使用した
ライドイベントを自治体・地元企業とともに実施

シティプロモーション
自転車による街めぐり企画を市町・地元企業と共同で実施し、
自転車だからこそ発見できる観光情報やグルメ等、
地域の魅力をSNSで発信

大規模イベントの開催

サイクリングプロジェクト

地域の観光資源と連携したサイクルツーリズムの推進により、新たな観光価値創造を目指すとともに、自転車の機動性を活かしたきめ細やかな観光情報を発信することで、地元のサービス業、観光業の活性化を図ります。

産官学連携による地域プロモーション

サテライトオフィス「狩野ベース」を所有・運営する伊豆市と、同施設にて東部サテライト「三余塾」を運営する静岡大学、「サイクルステーションKANO BASE」を運営する当社の三者による産官学連携の地方創生事業として、「自転車で巡る伊豆市ジオサイト」を実施しています。

自治体/民間企業/団体との連携

28の自治体・民間企業・団体と「自転車振興に関するパートナーシップ協定」を締結しています。

サイクリングイベント

各自治体、団体、民間企業の皆さまとともに、ナショナルサイクルルート「太平洋岸自転車道」、富士山周遊ルートのPRイベントを中心に、開催しています。

- ツアー・オブ・ジャパン2025 富士山ステージ
- ツアー・オブ・ジャパン2025 相模原ステージ
- 富士山1周サイクリング

シティプロモーション

自治体・地元企業の皆さまと地域の魅力を伝えるシティプロモーションを展開しています。

- ・神奈川県　かながわサイクリング
- ・横須賀市　よこすかーとミュージアム
- ・東急ホテルズ　東急ホテルズ自転車旅
- ・相模原市　SAGAMIHARA RIDE!
- ・袋井市　どまん中袋井ぽたりんぐ
- ・ふじさん駿河湾フェリー　Cycling223

他多数

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ESG/SDGsの取組み状況（人的資本・環境保全）

あってよかった 出会えてよかった

社員のキャリア支援・ダイバーシティ推進

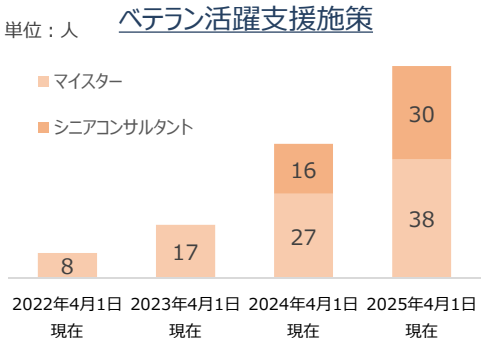
ベースアップ／初任給の引き上げ

・平均7.5%のベースアップ等を実施（2024年7月）

・初任給を最大26万円に引き上げ（2025年度～）

７０歳まで活躍できる環境の整備（ベテラン社員活躍支援）

・専門職「マイスター職」や営業職「シニアコンサルタント職」を新設し、70歳まで活躍できる環境を整備



女性リーダー育成プログラム

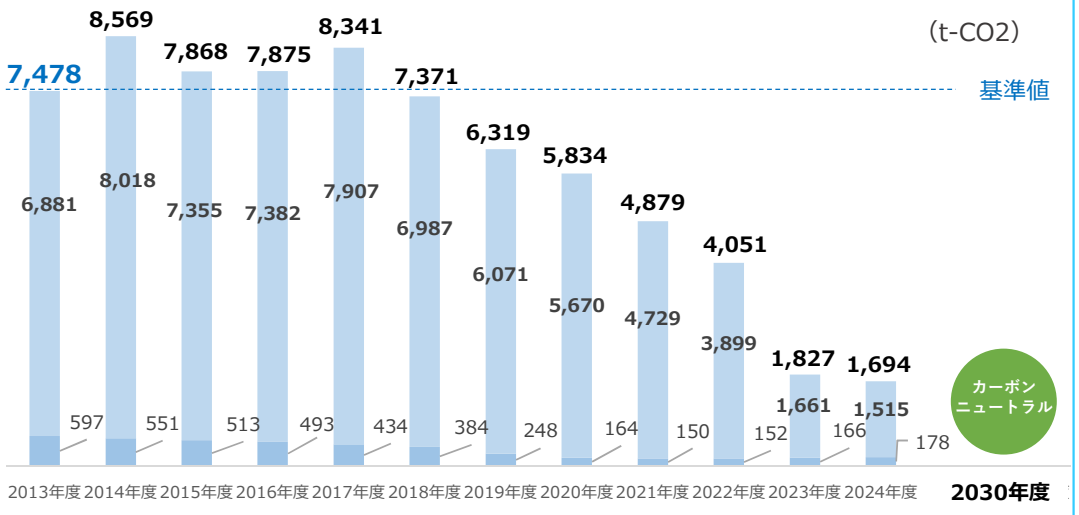
・経営陣候補を育成する「未来経営塾」や、その裾野を広げる「未来経営塾Lite」を実施

-階層イメージ-

環境保全への貢献

2030年度のCO_2排出量の目標は、2013年度比75%削減に設定しておりましたが、エコオフィス化やCO_2フリー電気の導入などの取組みにより、前倒しで目標水準に到達したことを踏まえ、『2030年度までにカーボンニュートラル』に目標を引き上げました。

温室効果ガス（CO_2）排出量推移（ Scope1・Scope2 ）



Scope2：他社から供給された電気・熱・蒸気に伴うCO_2の間接排出量

Scope1：事業者自らの直接排出量

モニタリング指標：Scope1（直接）＋Scope2（間接）のCO_2排出量
集計範囲：スルガ銀行の全営業店、全本部

カーボンニュートラルに向けた取組み

再エネ電力の導入、店舗設備の省エネ化、など、これまで進めてきた温室効果ガス（CO_2）排出量の削減施策や、WEB会議などの拡充を引き続き推し進めていきます。

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

Ⅰ　決算概況

Ⅱ　配当予想修正の背景

Ⅲ　PBR1倍超に向けた取組み

Ⅳ　参考資料

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■2026年3月期 中間期決算実績（詳細） – 前年同期比 –

あってよかった 出会えてよかった

＜単体＞ （億円）

	2024年9月期 実績 (A)	2025年9月期 実績 (B)	前年同期比 (B)-(A)
コア業務粗利益（除く投信解約損益）	２９９	３２９	＋３０
経費（▲）	１７３	１６９	▲４
人件費	６７	７２	＋４
実質与信費用（▲）	▲０	▲２０	▲２０
有価証券関係損益	0	▲２４	▲２５
その他臨時損益	1	6	＋５
経常利益	１２８	１６３	＋３４
特別損益	2	1	▲０
中間純利益	１１０	１５６	＋４６

＜連結＞ （億円）

連結経常収益	４２５	５２３	＋９７
連結経常利益	１２９	１６７	＋３７
親会社株主に帰属する中間純利益	１１０	１５８	＋４７

＜主な増減要因（単体、前年同期比）＞

（+25億円） 資金利益	・預貸金利益の増加 ＋４億円 うち貸出金利息の増加 ＋２９億円 （平残要因 ＋１８億円、利回り要因 ＋１０億円） うち預金利息の増加 ＋２４億円 ・有価証券利息配当金の増加 ＋６億円 ・預け金利息の増加 ＋９億円
（+5億円） 役務取引等利益	・融資関連手数料の増加 ＋３.８億円 ・団体信用生命保険料の減少 ▲０.８億円
（▲4億円） 経費	・人的資本投資（人件費）の増加 ＋４億円 ・物件費の減少 ▲８億円
（▲25億円） 有価証券関係損益	・国債等債券損益 ▲３９億円 （マルチアセットファンド 他 償還損等） ・株式等関係損益 ＋１４億円（政策投資株式売却益）
その他	・順調な中間期業績を背景に税効果会計に用いる将来計画の見直しを行ったことに伴い、繰延税金資産を追加計上

※（ ）：前年同期比

※ 実質与信費用：前年同期比▲20億円 詳細は1ページをご参照ください

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■預金量推移および粘着性向上に向けた取組み状況

あってよかった 出会えてよかった

＜属性別預金残高＞

（億円）

	2025年3月末（A）	2025年9月末（B）	前期末比（B）－（A）
預金	３１,５４０	３１,１５８	▲３８２
個人	２５,１８３	２４,９６５	▲２１８
法人	４,１７９	４,３３６	＋１５７
公金	２,１７７	１,８５５	▲３２１

＜個人預り資産のうち投資性商品残高＞

（億円）

	2025年3月末（A）	2025年9月末（B）	前期末比（B）－（A）
投資性商品	１,４６０	１,６４６	＋１８５
外貨預金	５	３	▲１
国債等保護預り	１２０	１７６	＋５５
投資信託	７２２	７８３	＋６０
個人年金保険	３３４	３８２	＋４８
一時払終身保険	２７７	３００	＋２２

- 2025年9月末の個人預金残高は、前期末比218億円の減少
  個人の投資性商品残高は、前期末比185億円の増加

粘着性向上に向けた取組み

✓「金利ある世界」への回帰が進み、安定的な預金基盤である「粘着性のある預金」の重要性が高まっている

✓ 当社では、預金基盤の「量から質への転換」を進めるため、お客さまとのリレーションシップを深耕し、預金の粘着性を高める３本柱を推進していく方針

Tier 01
入金継続性を高める
年金
給与振込　etc.

Tier 02
口座利用頻度を高める
口座振替
定期支払　etc.

Tier 03
資産形成関与を高める
投資信託
保険　　etc.

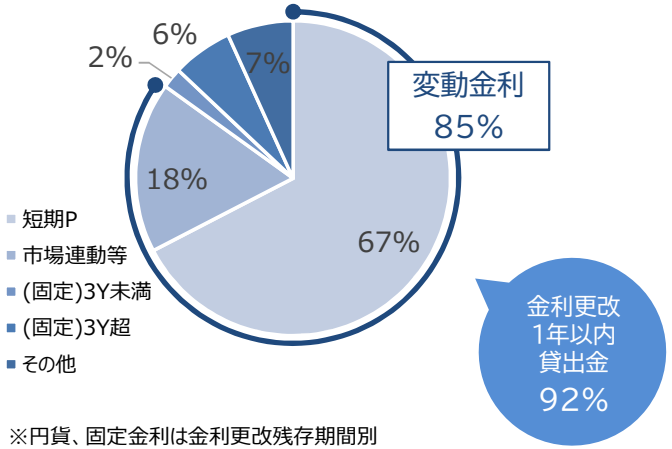
© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ バランスシートの概況

あってよかった 出会えてよかった

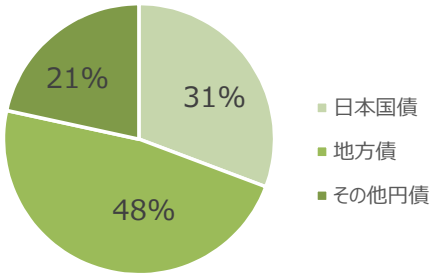
変動金利を中心としたローンポートフォリオを構築しており、金利上昇時は収益へプラスの影響

貸出金(基準金利別構成割合)



※円貨、固定金利は金利更改残存期間別

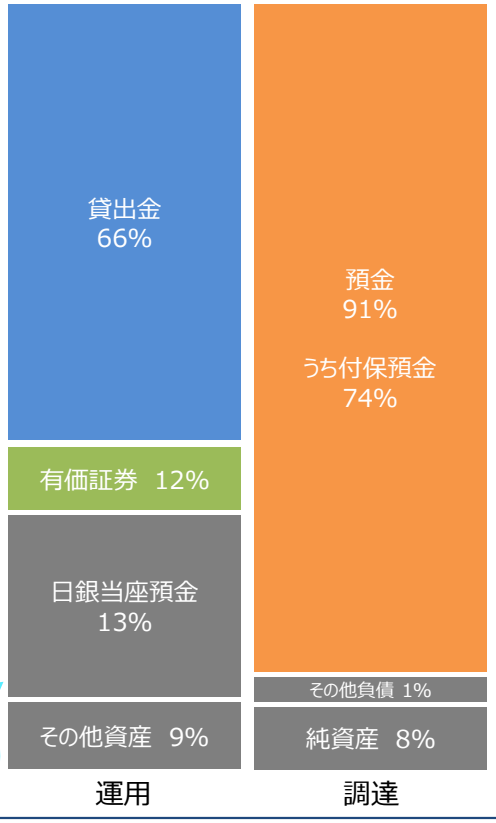
有価証券(国内債券構成割合)



2025年9月末時点（国内債券）
デュレーション：3.48年　　100BPV：▲105億円

バランスシート

2025年9月末　3兆4,148億円

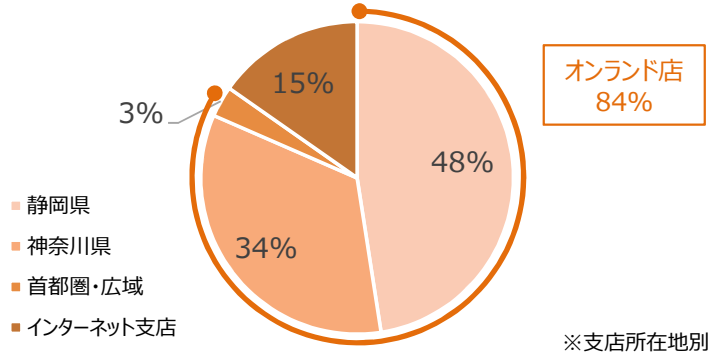


金利更改
1年以内
資産
85%

※金利更改1年以内：金利感応資産（円貨）を契約ベースで集計（残存期間1年以内の資産を含む）

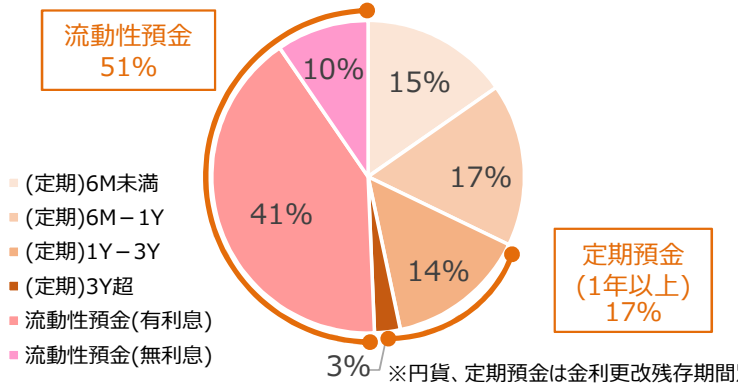
預金

拠点地域別残高



※支店所在地別

預金種別比率



※円貨、定期預金は金利更改残存期間別

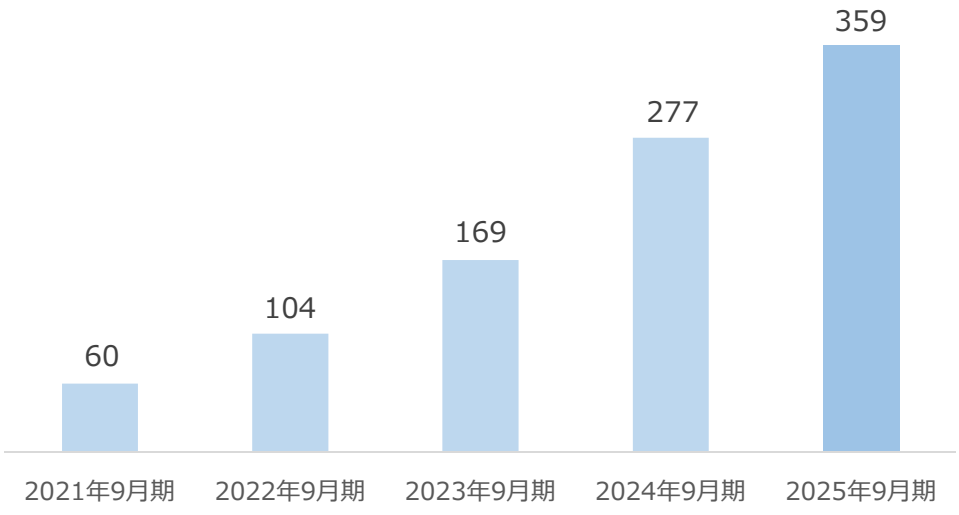
© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■住宅ローン・投資用不動産ローンの取組み状況（実行額推移）

あってよかった 出会えてよかった

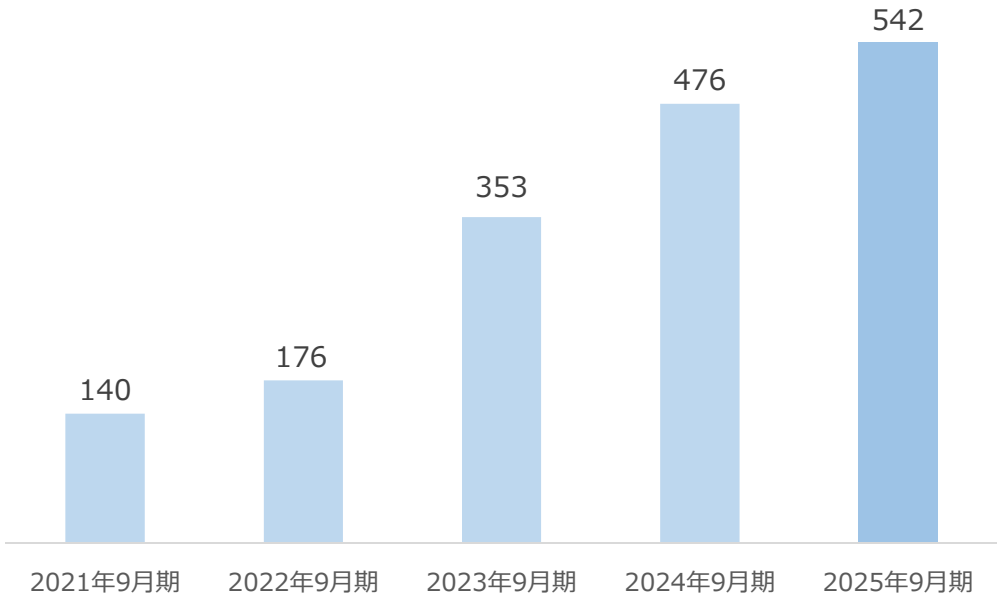
住宅ローン

単位：億円



投資用不動産ローン

単位：億円



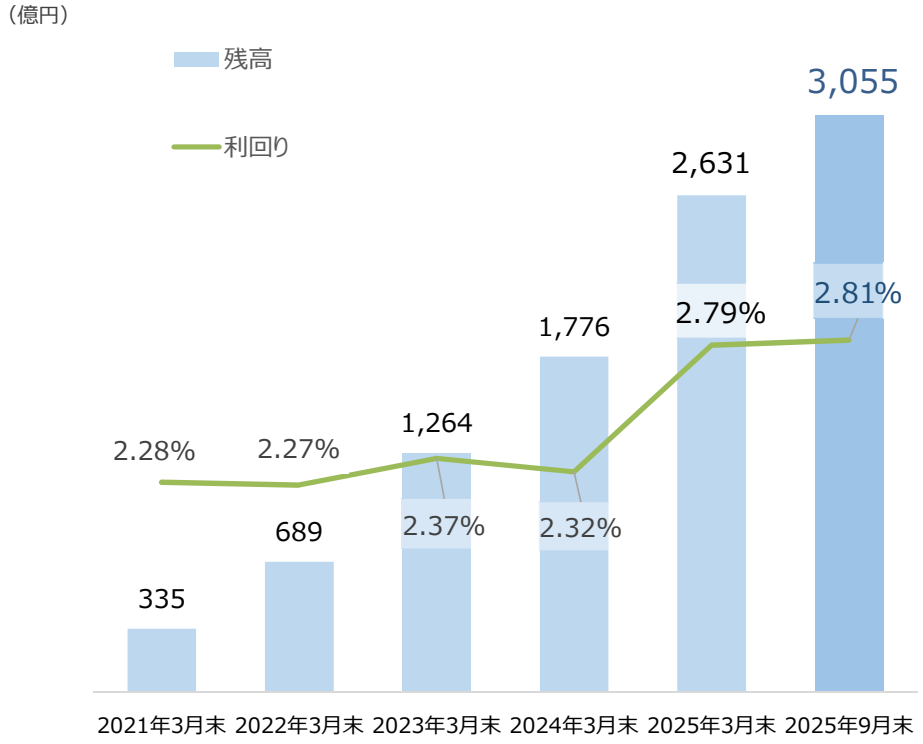
© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ ストラクチャードファイナンスの取組み状況

あってよかった 出会えてよかった

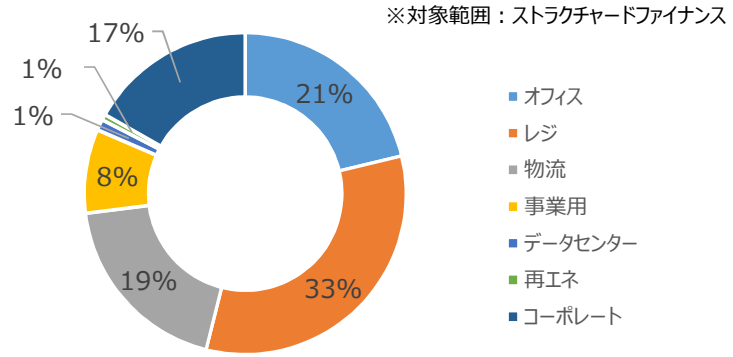
ストラクチャードファイナンス関連残高/利回り 推移

※対象範囲：貸出金と特定社債等



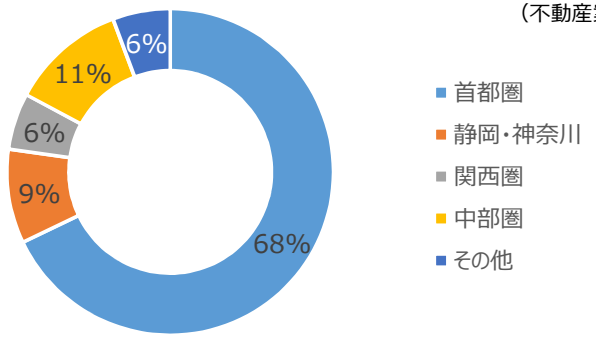
種類別残高構成割合（2025年9月末）

※対象範囲：ストラクチャードファイナンス



物件地域別残高構成割合（2025年9月末）

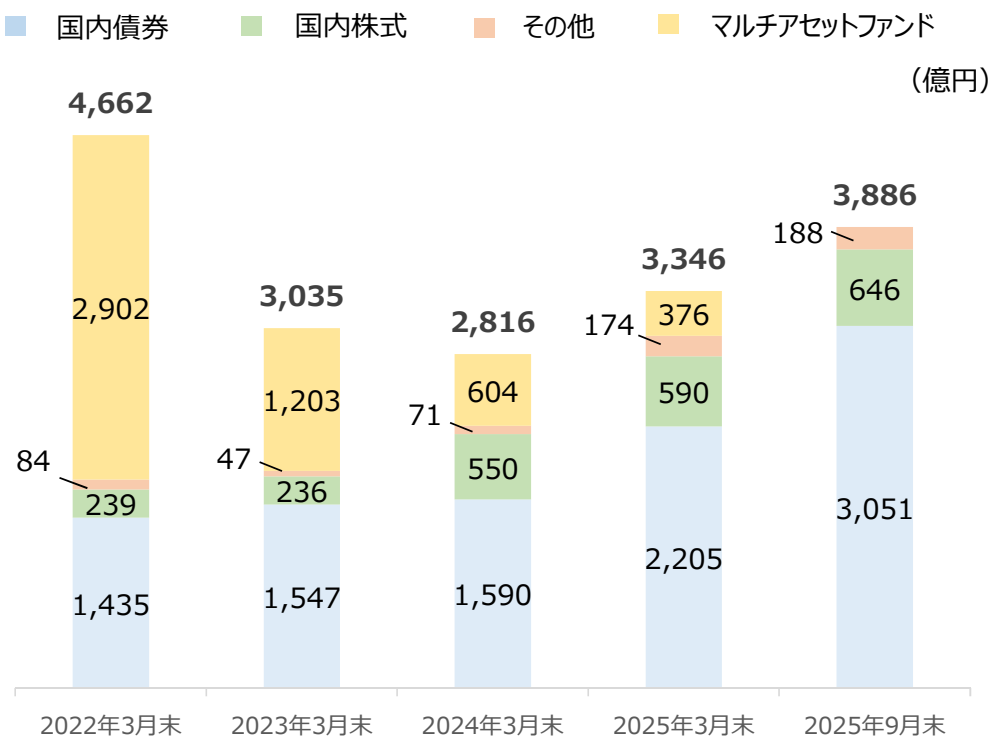
※対象範囲：ストラクチャードファイナンス
（不動産案件のみ）



© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ 有価証券の取組み状況

有価証券ポートフォリオ



2025年9月末時点
預証率：12.4%

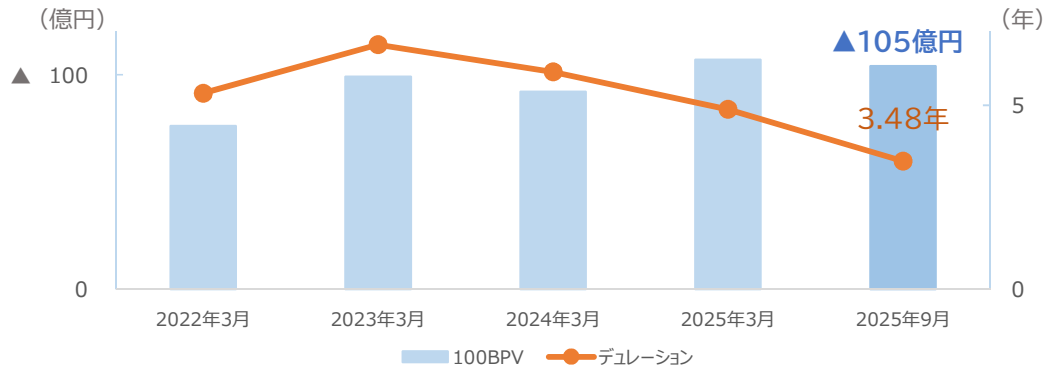
有価証券評価損益

・時価のある有価証券の評価差額

（億円）

	2025年3月末		2025年9月末	
	時価	評価損益	時価	評価損益
その他有価証券	3,246	204	3,786	301
株式	509	292	565	363
債券	2,205	▲65	3,051	▲63
ﾏﾙﾁｱｾｯﾄﾌｧﾝﾄﾞ	376	▲23		
その他	154	0	169	1

国内債券デュレーション・100BPV 推移



© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■ローン等の残高、利回り、延滞率 <単体>

あってよかった 出会えてよかった

（億円）

	2024年9月			2025年9月		
	残高	利回り	延滞率	残高	利回り	延滞率
有担保ローン	13,743	2.89%	7.01%	12,676	3.12%	6.69%
住宅ローン	4,198	2.48%	0.33%	4,167	2.73%	0.16%
投資用不動産ローン	9,227	3.04%	10.28%	8,200	3.28%	10.26%
その他有担保ローン	317	3.92%	0.18%	309	4.04%	0.19%
無担保ローン	1,075	10.47%	1.49%	983	10.49%	1.22%
カードローン	799	11.53%	0.54%	759	11.34%	0.41%
無担保証書貸付等	276	7.41%	4.24%	224	7.61%	3.95%
個人ローン(A)	14,819	3.44%	6.61%	13,660	3.65%	6.30%
個人ローン(組織的交渉先等を除く)(F)	13,903		1.05%	12,853		0.68%
法人向け不動産ローン(B)	1,308	1.81%	–	2,039	1.95%	–
法人向け住宅ローン	18	1.52%	–	154	1.64%	–
法人向け投資用不動産ローン	1,289	1.81%	–	1,884	1.97%	–
ストラクチャードファイナンス(C)	2,039	2.50%	–	3,055	2.81%	–
コラボレーション・ローン等(D)	1,655	2.14%	0.04%	1,946	2.35%	0.01%
合計 <(E)：(A)(B)(C)(D)合算>	19,821	3.13%	4.94%	20,702	3.24%	4.16%

※延滞率＝３カ月以上延滞債権÷ローン残高　　※利回り ： 対顧客利回り（保証料、未収利息勘案前）、末残ベース
※中期経営計画"Re:Start 2025"以降の推進領域別で区分
「ストラクチャードファイナンス」には特定社債等を含む
「コラボレーション・ローン等」は、他社と共同・連携した形態でのローン等(ローン・パーティシペーションや他社債権の買入等)
※「組織的交渉先等」は、組織的交渉を契機として返済停止申出のある先等

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■金融再生法開示債権＜単体＞

金融再生法開示債権（2025年9月末）

（億円）

	残高	保全額合計			保全率
			担保保証等による保全額*	貸倒引当金による引当額	
破産更生債権およびこれらに準ずる債権	９４７	９４７	３６９	５７８	１００%
危険債権	５７９	４１７	２４０	１７７	７２.１%
要管理債権	２５１	１３０	８０	４９	５１.７%
合計	１,７７８	１,４９５	６９０	８０４	８４.０%

総与信に占める開示額の割合（開示債権比率）	７.８%

組織的交渉先を除く開示債権比率：４.５%

金融再生法開示債権のうち組織的交渉先

（億円）

	残高	保全額合計			保全率
			担保保証等による保全額*	貸倒引当金による引当額	
組織的交渉先等	７８０	７８０	２７３	５０６	９９.９%

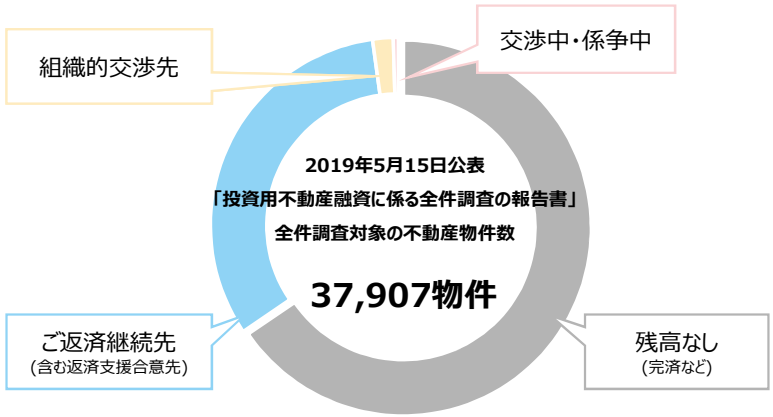
* 貸出金等与信関連債権の担保評価は、通常、積算法等による評価の90%を採用しているが、本数値は積算法等による評価の100%
なお、投資用不動産ローンの融資対象である収益物件における過去の債権譲渡実績において、担保評価に対する債権譲渡額の比率は200%を上回る実績

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

■投資用不動産ローン – 組織的交渉先の状況 –

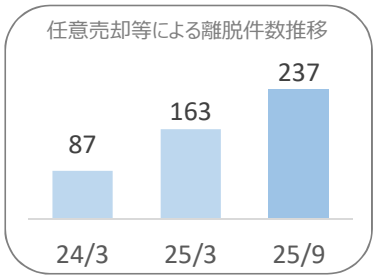
あってよかった 出会えてよかった

これまでの取組み状況



2025年9月末時点

約6年に亘るご返済支援やご相談の取組みを経て、
全件調査を行った37,907物件のうち約7割が
融資残高0となり、約3割がご返済を継続いただいています。
一方、当社との間で組織的交渉が行われている件数は
694物件※(37,907物件のうち1.8%)であり、
適正な解決に向けて引き続き対応してまいります。



※任意売却等により、2022年9月末から2025年9月末までに237物件が組織的交渉先から外れております。

⇒ 組織的交渉先の債権に対する保全状況は、担保と貸倒引当金にて**カバー率99%**

今後の対応にあたっての基本的考え方

1. **早期和解**を図る観点から、訴訟において銀行の不法行為責任が認定される可能性が高いと考えられる**一定の類型に該当する案件**について、当社も積極的に**融資経緯等の解明に協力**していきたいと考えています。

2. また、投資用不動産の売却により完済に至っている事案も複数あり、**任意での売却を検討するご提案**も進めています。

3. なお、投資用不動産ローン案件については、各案件にそれぞれ**強い個別性**があるため、損害賠償義務の有無・度合の判断にあたっては、**各案件に固有の事情を個別に検討**する必要があると考えています。

※当社対応状況の詳細については、2025年10月17日公表の「シェアハウス以外の投資用不動産向け融資についての当社対応状況」をご参照ください。

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.

スルガ銀行

〈 本件に関する照会先 〉
総合企画本部　広報室
［TEL］　03-3279-5536
［メールアドレス］ir.koho@surugabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関る記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

© 2025 Suruga Bank Ltd. All rights reserved.